

イングランドでの症候性 COVID-19 罹患, 入院, および死亡に対する COVID-19 ブースターワクチン接種の有効性

[Effectiveness of COVID-19 booster vaccines against covid-19 related symptoms, hospitalisation and death in England](#)

Andrews N, Stowe J, Kirsebom F, et al.

【Nat Med. 2022 Jan 14】-peer reviewed(査読済み)

(要旨)

2021年9月14日から、イングランドでは成人を対象として mRNA ワクチンによるブースター接種が受けられるようになった。本研究では、診断陰性例コントロールデザインを用いて、デルタ株が主流であった 2021年9月13日～12月5日に、BNT162b2 (Pfizer 社/BioNTech 社製ワクチン) によるブースター接種の相対的な有効性をプライマリーコース2回接種のみの群(2回目接種後175日以上経過)および未接種者の群と比較して推定した。アウトカムは症候性 COVID-19 罹患および入院とした。ChAdOx1-S (AstraZeneca 社製ワクチン) または BNT162b2 のプライマリーコース完了後、BNT162b2 または mRNA-1273 (Moderna 社製ワクチン) をブースター接種してから14～34日後の症候性 COVID-19 罹患に対する対照群と比較した有効性は、約85～95%であった^A。絶対的なワクチン有効性(VE)は94～97%であり、すべての年齢層で同程度であった^B。ブースター接種から10週後以降には、わずかな減弱がみられた。入院または死亡に対するBNT162b2ブースター接種の絶対的な有効性は、プライマリーコースで接種したワクチンの種類にかかわらず、すべての年齢層で約97%～99%であり、10週目まで減弱のエビデンスはみとめられなかった。本研究により、プライマリーコースで接種したワクチンの種類にかかわらず、ブースター接種が軽症および重症 COVID-19 罹患に対する防御効果を著しく高めるというリアルワールドエビデンスが示された。

^A ワクチン有効性(VE)は、 $1 - [\text{症例群のワクチン接種オッズ} / \text{対照群のワクチン接種オッズ}]$ により求めた。主解析では、ブースター接種を受けた患者を、プライマリー接種のみの患者(プライマリーコースの2回接種後175日以上経過後にCOVID-19を発症し、かつブースター接種の記録のなかった人)と比較した有効性を測定した。

^B 副次解析では、ワクチン未接種との比較を行い、2回接種のみ、および2回接種+ブースター接種の絶対的な有効性を測定した。